

ROTEL 製品試聴

ROTEL RDD-1580



ROTEL RDD-1580

希望小売価格 ¥ 150,000



Rotel RDD-1580 は、LAN (Ethernet) に対応しない USB 入力を備える DAC です。付属する専用ドライバーのインストールで USB Class 2.0 (192kHz/24bit) の再生に対応しますが、DSD は非対応です。このモデルの音質を確認するため、スピーカーを Vienna Acoustics Beethoven Concert Grand(T3G)、CD プレーヤーとアンプは AIRBOW SA14S1/PM14S1 Master を使って音質テストを行うことにしました。

試聴機材

今回の試聴では、受け側 DAC だけではなく、送り側 PC の音質を比較するため、Windows7 Professional (i5) をインストールしたノート PC と AIRBOW MSS-i3/MSHD を使いました。また、Rotel RDD-1580、AIRBOW SA14S1 Master 共に iPod の接続に対応するので、追加で愛用の iPod Touch/ 第 5 世代を繋いで PC と音質を比較しました。



Vienna Acoustics Beethoven Concert Grand(T3G)



AIRBOW SA14S1 Master



AIRBOW PM14S1 Master



「Windows7pro」をインストールした PC。CPU は i5、再生ソフトは MSS-i3 に合わせて、「VLC Player」を使いました。



「i-cat MSHD/Linux」をインストールした AIRBOW MSS-i3/MSHD。CPU は i3。再生ソフトは「VLC Player」を使いました。



「i-OS7」をインストールした、i-Pod タッチ / 第 5 世代も比較に使いました。再生ソフトは、i-Tunes です。

音質テストの概要

当初 RDD-1580 を使って Windows PC と AIRBOW MSS-i3/MSHD の比較を行う予定でした。RDD-1580 の説明書には「専用のドライバーを入れない場合、USB Class 1.0 で繋がり、96kHz/24bit までのデータを再生可能」と書いてあったので、ドライバーを入れずに Windows PC に接続しました。しかし、ドライバーが不明と表示されて RDD-1580 が認識されません。届けられた試聴機には付属するはずの専用ドライバーが見当たらず、また Rotel の HP からは専用ドライバーが供給されていないのでしかたなく、今回は RDD-1580 と Windows PC を組み合わせた音質テストはパスすることになりました。

このままでは RDD-1580 の USB 入力の音質がテストできません。そこでオーディオ用にチューンした Linux を搭載する AIRBOW MSS-i3/MSHD を送り側機に使用して USB 接続の音質を AIRBOW SA14S1 Master と比較することにしました。Windows が対応しない DAC に Linux が対応することを疑問に思われる方がいらっしゃるかも知れませんが、MSS-i3/MSHD が搭載する MSHD は、特別な場合 (YAMAHA の新製品) などを除き、ほとんどの機器と USB 接続が可能なのです。また、一部のモデルでは搭載する VLC の機能を使って 192kHz/24bit までのハイレゾ音源の再生も可能です。VLC が対応しない USB 機器とは 44.1kHz 固定で繋がり

ますが、ハイレゾとの音質差はほとんどありません。今回テストした DAC (CD プレーヤー) だけではなく、ハイレゾ対応 USB-DAC で CD をリップした音源とハイレゾ音源を比較しましたが、高級機になればなるほど 44.1kHz/16bit と 192kHz/24bit の差が小さくなります。最近発売される高級 CD プレーヤーでは、ハイブリッドディスクを再生した場合の CD レイヤーと SACD レイヤーの音質差が無視できるほど小さいかあるいは逆転することがあります。DAC も良く出来たモデルなら、ハイレゾとノーマル音源、DSD とノーマル音源の差はほとんどありません。それらの高級機で実際に再現される音楽の音質差は、ハイレゾ、DSD、ノーマル (CD と同



添付される付属品 (プロトタイプ)

AC ケーブル、リモコン、RCA ケーブル、外部機器制御用・フォンケーブル、USB ケーブル、ドライバーインストール CD-ROM

じ 44.1kHz) というデータファイル形式よりも、「ソフトの録音そのもの」による音の違いの方が遙かに大きく感じられます。

そういう理由で今回は、AIRBOW MSS-i3/MSHD を送り側に使い、ファイルは CD をリッピングした 44.1kHz/16bit の WAV だけを使用しました。しかし、Windows PC を送り側機に使う場合と、AIRBOW MSS-i3/MSHD を送り機に使う場合では音質に大きな差があります。そこで誤解を招かないよう、このテストではまず AIRBOW

SA14S1 Master を USB 接続した場合の Windows PC と AIRBOW MSS-i3/MSHD の音質を比較した後で、Rotel RDD-1580 の音質をレポートすることにしました。

送り側に Windows PC を使った場合の AIRBOW SA14S1 Master の音質



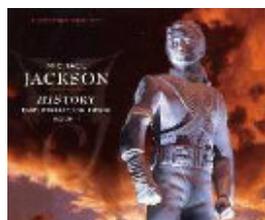
Windows7pro



SA14S1 Master



PM14S1 Master



Michael Jackson "Billy Jean"

AIRBOW SA14S1 Master で聞く CD (リッピング元) に比べ、音の立ち上がりが明らかに遅く、また周波数帯域上下のレンジが削られてかなり音質が「圧縮」されたように感じま

す。

音の分離感や解像度感も CD に劣り、音場が濁って一つずつの音にも切れ味と鮮やかさを感じません。

悪い音、嫌な音ではありませんが、中庸に鳴っている感じです。



Nora Jones "Cold Cold Heart"

マイケル同様、CD に比べて音場が濁っています。それぞれの音の分離も悪く、楽器の音色やボーカルの表情に鮮やかさが感じられま

せん。

分厚いカーテンの向こう側に設置したスピーカーで聴いているようです。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

このソフトは元々音場が濁って聞こえるので、PCをトランスポートに使うことによる欠点はあまり感じられません。

バイオリン、チェロ、コントラバスの各パートの音は分離して聞き取れますが、CD よりも楽器の音色の描き分けが甘く、バイオリン、チェロ、コントラバスの特長がうまく再現されません。

この文章だけを読むと「かなり悪い音」のように思われるかも知れませんが、絶対的には悪い音ではありませんし、音楽性を損ねる妙な癖も感じられません。このレポートはいつも聞いている「相当良い音」との比較なので、音楽を聞くには十分な音は出ている感じです。

送り側に AIRBOW MSS-i3/MSHD を使った場合の AIRBOW SA14S1 Master の音質



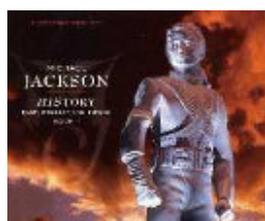
MSS-i3/MSHD



SA14S1 Master



PM14S1 Master



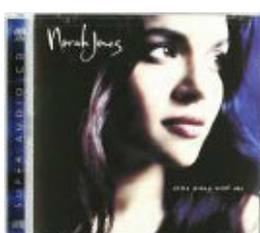
Michael Jackson "Billy Jean"

一音目からまったく音が違います。空間が濁らずに大きく広がり、一つずつの音が磨かれたように輝いて力があ

ります。

Windows の音質を MP3 に例えるなら、MSS-i3/MSHD は CD 以上の音に感じられます。低音は弾み、高音は抜けています。音の細かさや飛躍的に向上し、Windows PC では団子になっていた音の重なりが綺麗に分離します。

音の次元が大きく変わりました。



Nora Jones "Cold Cold Heart"

Windows PC と比べて前後方向へ音場がより大きく展開します。また、音場空間の濁りも取れて見通しが良くなりました。目の前に

あった分厚いカーテンが取り払われたようです。

ピアノの響きの余韻の長さ、ボーカルの息づかい、ウッドベースの弦を押さえる左手の圧力変化、そういった「高級オーディオでしか味わえない世界」が再現されるようになりました。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

送り側の PC を変えると、コンサートホールの座席位置が変わります。

Windows PC はコンサートホール後方で音が混濁して聞こえる状態。

MSS-i3/MSHD は楽器からの直接音と間接音のバランスが最も良いとされる SS 席に該当し、さらに楽器からの直接音とホールの反射音(間接音)が聞き分けられそうなくらい、音が細かくまたそれぞれの特長がきちんと再現されます。文句を付けるなら、CD に比べて弦楽器の高次倍音が完全に再現されていないように感じる部分でしょうか。生楽器はもっと高い周波数のエネルギーが高いはずなのに、その部分が若干スポイルされているように感じます。しかし、オーディオと生楽器では元々そういう高周波に近い周波数帯域の音が一番違うので、これくらいは仕方ない事だと思います。

送り側に AIRBOW MSS-i3/MSHD を使った場合の Rotel RDD-1580 の音質



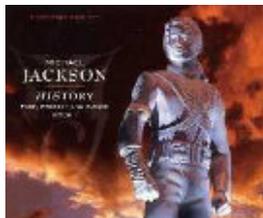
MSS-i3/MSHD



Rotel RDD-1580



PM14S1 Master



Michael Jackson
"Billy Jean"

低音にシッカリしたボリュームがあり、全体的に肉厚な音です。しかし、リズムが若干重く、伴奏とボーカルの関係も SA14S1 Master

のようにピッタリと合っている印象がありません。

しかし、RDD-1580 は多くの USB-DAC で問題となる高域のノイズをまったく感じられないほど音はクリアで、伴奏とボーカルの分離にも優れ、音楽を楽しめる良い音の USB-DAC という印象です。



Nora Jones "Cold Heart"

ウッドベースの音に厚みがあり、ボディの木の暖かさを感じます。ノラ・ジョーンズの声にも厚みがあり、女性らしくまたふくやかな彼女の若々しいボディを連想させるような艶のある音が出ました。

ピアノは少し響きがマイルドですが中低音にしっかりとした厚みがあり、高価なピアノらしい良い音が出ます。

マイケルで感じた「リズムの重さ」はこの曲ではまったく問題とならないばかりか、曲の流れに余裕を生み好印象。大きな川が海に向かって流れるような、ゆったりとした暖かい音でノラ・ジョーンズが聞けました。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

SA14S1 Master にくらべるとコンサートホールの大きさがやや小振りに感じられます。また、気になっていた弦楽器の高次倍音もさらにミュートされたよう

に聞こえますが、無理に伸びていない分違和感が小さいように感じられます。

上手にデフォルメされたオーディオの音ですが、縮尺や要約のスケールが正確なので音楽の再現性にはまったく影響を与えません。

ヒヤリングを行ったテスターが「好みや感覚に合わせて作った音」という感じがなく、DAC チップメーカーから供給される評価回路をそのまま組んだような、良い意味で癖や機械のいやらしさの感じられない、フラットな音でヒラリー・ハーンが聞けました。

iPod Touch 第五世代

本来は PC による音質比較で USB DAC のレポートを終えるのですが、最近私は好んで愛用の iPod Touch (第 5 世代 /ios7) を AIRBOW 機器に接続して聞いています。それは iPod が多彩なプレイ「プレイリスト、シャッフル、ジニアスプレイリストなど」を備え、長時間ジューク BOX 的に音楽を聞くのにとっても適していることに加え、音源を MP3(320kbs) で圧縮して収録しているにもかかわらず、下手な CD プレーヤーよりも音が良いと感じる事が少なくないからです。そこで今回は、追加テストとして AIRBOW SA14S1 Master と RDD-1580 に備わる Front USB 端子に愛用の iPod Touch (第 5 世代 /IOS7) を繋いで聞いてみました。



送り側に iPod Touch を使った場合の Rotel RDD-1580 の音質 (接続は iPod Touch に付属の USB ケーブルを使用)



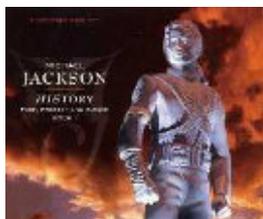
iPod Touch/ 第 5 世代



Rotel RDD-1580



PM14S1 Master



Michael Jackson "Billy Jean"

SA14S1 Master + Windows PC で聞いた音よりは明らかに解像度が高く、音場の濁りも少なく良い音です。

高域にはまったくノイズ感がなく、ボーカルも滑らかです。聞き耳を立てると音の数が少し少なく、音が重なったところの裏側の音が少ないように感じます。また低音のボリューム感も小さくなっていますが、バランスに優れているので音楽を楽しんで聞けます。自然で違和感のない楽しい音です。

MSS-i3/MSHD に繋いだ場合の RDD-1580 の音を 10 として 8 近くまで出ているかもしれません。



Nora Jones "Cold Heart"

ウッドベースの量感が若干失われ、ウッドベースの音量が少し小さくなりました。しかし、ベースが後に下がった分ボーカルが前

に出て心地よい感じでした。

絶対的な情報量や音質は劣化しているはずなのですが、全体のバランスや雰囲気は優れるので、オーディオ的に聞き耳を立てなければそれが気になりません。

また、PC をトランスポートにした場合は、音が途切れ途切れに感じられる (音が滑らかに繋がらず、音と音の間に隙間があるような感覚) 事があるのですが、iPod Touch の音は滑らかに繋がり、レコードや CD のようにディスクを回転させて音楽を聞いているのに近いイメージの音が出ます。

まったく不満を感じない良い音でノラ・ジョーンズが聞けました。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

iPod Touch だとやっぱり、安心できる良い音です。Windows PC を大きく超えるこの良さは一体なんだろう？下手をすると MSS-i3/MSHD よりも音が有機的で滑らかに感じられるほど良い音で

す。

音の細かさ、周波数帯域の広さなど HiFi 性能では MSS-i3/MSHD が iPod Touch を大きく凌駕しますが、音楽を聞くだけなら iPod Touch でも十分な音が出せると思います。

音源を「WAV」で取り込むのと記憶領域に限られる「iPod Touch」ですが、音質は Windows PC を明らかに超えています。

送り側に iPod Touch を使った場合の AIRBOW SA14S1 Master の音質 (接続は iPod Touch に付属の USB ケーブルを使用)



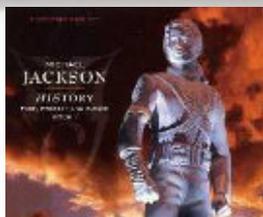
iPod Touch/ 第 5 世代



SA14S1 Master



PM14S1 Master



Michael Jackson "Billy Jean"

出てきた音を聞いて驚きました。MSS-i3/MSHD をソースにしているときは、SA14S1 Master と RDD-1580 の能力はかなり拮抗しているように

感じたのですが、iPod Touch で聞き比べるとかなりの差が感じられたのです。iPod Touch で比較する SA14S1 Master は、音の細かさ、明瞭度、鮮やかさで RDD-1580 を大きく上回ります。

RDD-1580 と SA14S1 Master で iPod Touch を聞いて感じるのは、音質面で明らかに MSS-i3/MSHD に iPod Touch は引けを取るものの、それを凌ぐほどのバランスに優れた滑らかな音は実に魅力的で、雰囲気良く音楽を聞かせるのです。雰囲気優先！音楽を楽しませる！という部分を重点的に AIRBOW 製品は音作りしますが、iPod Touch はそれに似ています。

AIRBOW の入門機のように音質を欲張らず音楽の雰囲気を見事に醸し出せる iPod Touch。こんなに小さな機械からこんな素敵な音が出る。これはすごいことです。



Nora Jones "Cold Heart"

意外性に驚かされましたが、ここで少し冷静になって、分析的に音を聞いてみました。

iPod Touch の音は周波数帯域の上下が若干ドロップした「音楽再生に理想的とされる、かまぼこ形のエネルギーバランス」を持っています。聞こえると気になる高音が上手く端折られているので、音質の劣化が気にならないのです。また、響きの成分も多めに再生されるので、音楽の雰囲気や演奏会場の空気感が上手く再現されます。

普及価格帯のゼネラルオーディオの iPod Touch ですが、その音作りの手法が AIRBOW の高級コンポに見事にマッチし、そのサイズや価格が信じられないほど心地よい雰囲気音楽が再現されます。以前から、私は iPod Touch や iPad の音が良いと感じていましたが、iPod-USB インターフェイスの進歩と共にそれがさらに磨かれてきたようです。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

響きが多く滑らかな音です。

音がとても自然にシームレスに流れるので、違和感なく楽しく音楽を聞くことができます。その音は良くできた A クラスアンプや、真空管アンプのそれに近いイメージです。

弦楽器の高音が若干丸いのですが、その減衰する感じが自然(物理的な減衰に近い)なので音質劣化が気になりません。逆にこのソフトでは高音が丸められていることで、グラムフォン系のソフトの問題である「空間の濁り」や「楽器の異質な重なり感(倍音がぶつかる)」が全く気にならないというメリットさえ感じました。

最新のソフトの多くは「ゼネラルオーディオ(通常音質の機器)」に合わせて作られています。細かい音まで収録するのはなく、各々の楽器の音の明瞭度を高めて収録しています。そのようなソフトを高解オーディオで再生すると、本来は再生されるべきではない「楽器の音を録音しているマイクが拾ったその場の間接音」まで再生されてしまうので空間が濁り、音の広がりや定位が悪くなるのです。

しかし、iPod Touch のちょうど良い音質劣化が、「問題となる部分」をスポイルしてくれるので、より雰囲気良く音楽を自然に楽しめたのだと思います。

CD ソフト

試聴の締めくくりに CD を聞きました。

まず SA14S1 Master で PC にリップした元 CD を聞き比べ、さらにヒラリー・ハーンのソフトでは SACD レイヤーの音質もチェックしました。

さらに AIRBOW SA14S1 Master の上級モデル CD3N Analogue を CD で SA14S1 Master と聞き比べました。ベルトドライブ CD プレーヤーという希少な存在感を放つ、CD3N Analogue は一体どのようなサウンドで音楽を奏でくれたのでしょうか？

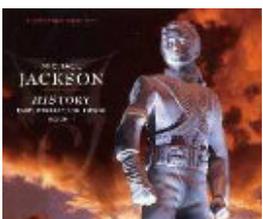
SA14S1 Master で CD を試聴



SA14S1 Master



PM14S1 Master



Michael Jackson "Billy Jean"

「音質」という意味では、今回試聴した中で CD がベストでした。

高音が綺麗に伸びて、それぞれの音の分離、質感にも優れています。

これぞ高級オーディオの良い音だ！というイメージでマイケルが鳴ります。

iPod Touch の音が、えもいわれぬソフトフォーカス感が醸し出す良い雰囲気音楽でマイケルを楽しませてくれるのなら、CD はきちんとした高音質でマイケルを楽しませてくれます。

iPod Touch の雰囲気の良さにさらに、音の良さ(良い音を聞く)という喜びが加わりました。



Nora Jones "Cold Heart"

WindowsPC と比べて音それぞれに「品位の高さ」を実感します。

密度が高く端正で美しい音で楽器が鳴り、音楽が奏でられます。楽器奏者のタッチの変化、ノラ・

ジョーンズの声の変化、細かい部分の再現性は、やはり iPod Touch とは比較にならないくらい向上します。

オーディオマニアがこだわる「音質」では CD が一番です。「高級」という言葉で表される何かの音がしっかりと伝わります。

雰囲気に逃げることなく、真っ直ぐ良い音を出してノラ・ジョーンズをがっちり聞かせてくれました。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

このディスクはハイブリッドなので、CD と SACD の両方で聞いてみることにしました。

CD レイヤー

弦楽器の高音と倍音がシッカリ伸びて、音に芯が出ます。バイオリン、チェロ、コントラバスのパートの分離も明解になり、情緒的な雰囲気にバツハらしい理知的な味わいが加わりました。

iPod Touch で聞くヒラリー・ハーンは気軽なライブを聴いている印象、CD ではそれが本格的なコンサートを聴いている印象に変わります。

正装して音楽をきちんと聞きたい。そういう折り目正しく美しい音でヒラリー・ハーンが聞けました。

正装して音楽をきちんと聞きたい。そういう折り目正しく美しい音でヒラリー・ハーンが聞けました。

SACD レイヤー

楽器の音が細くなりました。CD で聞く弦楽器の音は「クッキリ」していましたが、SACD レイヤーではそれが「滑らか」に感じられます。

この曲では CD のクッキリした音が、よりバツハらしい「区切り感(言語で言う音節)」の鮮やかさが感じられ好印象でしたが、逆にドビュッシーのような印象派の音楽には SACD の滑らかさがマッチしそうです。しかし、いざいざにしても最近メディアが主張する「DSD の圧倒的高音質の優位性」はまったく感じることができません。

CD プレーヤーの進歩により CD の音質が大きく向上した結果、ハイレゾや DSD (SACD) の必要が薄くなったように思います。ほとんどの音源が CD であることを考えれば、これはとても喜ばしいことです。

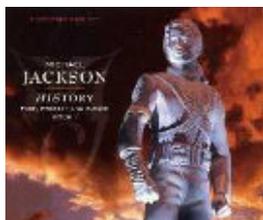
CD3N Analogue で CD を試聴



AIRBOW CD3N Analogue



PM14S1 Master



Michael Jackson "Billy Jean"

SA14S1 Master よりも高音がスッキリと伸びて、音場がより開放的に広がります。

従来ベルトドライブの弱点とされていた、低音の膨らみや高音の芯の弱さはまったく感じられませんでした。

同じ DAC を搭載する DA3N Analogue2 よりも、音質がややさっぱりしているとかatalogに書いた CD3N Analogue ですが、それでも楽器の色彩感 SA14S1 Master よりも濃厚で鮮やかです。

マイケルが早口で発音する英語がすべて聞き取れ、高音の表情も繊細で豊かに再現されます。また楽器とボーカルの対比や、各々の音の対比も非常に鮮やかです。

美しく彩色された色鮮やかな映像を見ているような美しさと、ドラマティックな躍動感でマイケルが鳴りました。



Nora Jones "Cold Heart"

今日はもう十分「良い音」を聞いているのですが、それでも CD3N Analogue の音を聞くと「安心」するから不思議です。

音は非常にきめ細かく、高音も驚くほどスッキリと伸びています。通常の HiFi 機器ではここまで音が良くなると、「音楽が HiFi になりすぎて分析的に聞こえ始める」のですが CD3N Analogue はそうならず、実に肌触り良い音で音楽が鳴ります。

SA14S1 Master で CD と iPod Touch を聞き比べたとき、音質では CD、雰囲気では iPod Touch に軍配を上げました。良い音と雰囲気の良さは両立しにくいのですが、CD3N Analogue は CD の高音質と iPod Touch の醸し出す雰囲気の良さを両立させています。とても高品位な音ですが、オーディオを聞いているという違和感がなく、良い音で生演奏を聴いている雰囲気です。

AIRBOW の上級モデルセパレート CD プレーヤーの TL3N/DA3N Analogue は濃厚極まりない雰囲気の濃さが魅力です。CD3N Analogue は雰囲気にとっぷりとまる寸前で端正さと艶やかさが両立した、純日本的な美しく艶やかな音でノラ・ジョーンズを鳴らしました。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

CD3N Analogue でこのディスク (CD レイヤー) を聞くと、SA14S1 Master で聞く SACD よりもさらに弦楽器の台数が多く感じられます。

音の広がり感は十分ですがコンサートホールのサイズがさほど大きく感じられないのは、CD3N Analogue ではなく「グラムフォンの癖 (マルチマイクによる音場の混濁感)」が若干悪い方向に働いているのでしょうか。

バイオリンの音は高音が美しく伸び、音にシッカリした芯の強さを感じられます。今回試聴した中でもっとも生の楽器の音に近い音です。チェロやコントラバスの音も同様にそれぞれの楽器の特徴的な音が明確に再現され、生演奏を聞いている音質と雰囲気音楽を楽しめます。

CD3N Analogue で聞くこのディスクは、音楽の躍動感、演奏の運動が現実に再現され、SA14S1 Master と比べても一段と精度と質が高められていることがよくわかります。

高性能でなおかつ自然な音。たぶんそれは CD3N (TL3N) が SACD よりも伸びやかに楽器の高音を再現できることに秘密があります。

ベルトドライブ方式の良さを生かし切る CD3N Analogue の高音は、SACD よりも遙かに良く伸びた自然な音質でヒラリー・ハーンを鳴らしました。

試聴後感想

今回の比較試聴では AIRBOW SA14S1 Master と Rotel RDD-1580 だけではなく、USB DAC としてそれぞれを使った場合の「送り側機 / デジタルトランスポート (PC や iPod)」の音質の比較を行いました。

今回の環境で Windows PC の音質は iPod Touch に及ばず、音楽を聞くには適しているとは思えないありませんでした。それに比べ、オーディオ用に特別チューニングを施した、Real Time Linux を搭載する MSS-i3/MSHD は、当然のことながら Windows PC の音質を圧倒しました。また、MSS-i3/MSHD は Windows PC のように専用ドライバーのインストールを必要とせず、繋げばすぐに USB DAC から音が出る (一部接続できない製品もあります) など使い勝手も Windows よりも優れています。Linux と聞くと敷居が高いイメージですが、意外に簡単で特別な知識なしでも使えそうです。MSS-i3/MSHD は今回、USB 接続での音質テストのみ行いましたが、HDMI や LAN 出力での高音質や搭載されるソフトを使った様々な機能を考え合わせるなら、価格相当の価値が出てくると思います。また同様の機能を持つ「NAS/Bufferalo 製品」などと比べても、音質機能面でそれを大きく上回ることを確認しています。

PC に比べ驚くほど小さく価格が安い iPod Touch は、音も貧弱に思われがちです。しかし、良質なヘッドホンを繋げばその音質は想像を遙かに超えるはずで、また、USB トランスポートとして使った場合も優秀で、今回のテストで付属ケーブルを使った場合でも、Windows PC の音質を超えました。もちろん、専用 OS を搭載するハイスペック PC の AIRBOW MSS-i3/MSHD

には及びませんが、その良さは私が名器と感じるフルレンジスピーカー BOSE 101 に似ているように思えます。どちらもすべての音をきちんと出しますが、それを上回る「美味しい音」を「美味しく出す」大きな魅力を持っています。

しかし、iPod Touch は記憶域の容量が PC よりも小さいことが問題です。多数の楽曲を収録するにはどうしてもファイル (データ) を圧縮しなければならぬからです。私は音質をテストした結果、MP3 320kbps に音源を圧縮して iPod Touch に収録しています。この圧縮なら、ヘッドホンで聴く限り「音質劣化」はほとんど気になりません。ヘッドホンで聴く場合はそうでもなくとも USB DAC と組み合わせる場合、収録するファイルは圧縮しない方が確実に良い音が出せることも事実ですが、プレイリストの作りやすさ、自動で音楽を選曲してくれるなど、長時間音楽を聞くために便利な機能も搭載されているので、ジューク BOX 的に CD プレーヤーを使いたいとお考えなら、iPod Touch もしくは iPad で十分だと思います。

今回テストに使った、iPod Touch は第 5 世代の一番新しいもので、OS も iOS7 をアップグレードしています。手元と同じ音源を収録した第 4 世代の iPod Touch があるのでそれと音質を比較しましたが、はっきりした音の違いを感じました。しかし、しばらくそのまま聞いているとどんどん音が良くなってきてはありませんか。PC は iPod Touch は「デジタル機器」なのでウォーミングアップは必要なさそうですが、同じデジタル機器である CD や DAC がそうであるように、ある程度の

ウォーミングアップは必要かも知れませんが、PC にウォーミングアップが必要なんておかしい！と早合点しないでください。デジタルの論理回路を動かしているのはアナログ回路。アナログ回路に使われるトランジスターは、温度変化に非常に敏感です。場合によっては数億を超えるトランジスターを搭載する、PC や iPod Touch が「暖まると音が変わる」のは、オーディオ機器としてはごく自然なことなのです。

私は試聴テストに使う特別な曲を除き iPod Touch には、MP3 (320kbps) で楽曲を取り込んでいます。なぜなら元々音質がそれほど優れている訳ではない古い Jazz や Pops などは音数が少なく、MP3 に圧縮しても CD とほとんど差を感じずすむ (もちろん、明かな違いはありますが) からです。しかし、音数の多い交響曲などは圧縮で音質が明らかに損なわれますから、そういう音楽のみ WAV で取り込み、音数 (音源の数) が少ない Jazz や Pops は MP3 と使い分けて容量の少なさを補っています。今回、音質が芳しくなかった Windows PC ですが、PC オーディオに Windows PC を使っている方は多いと思います。Windows の音質を少しでも良くするにはハイレゾや DSD ファイルを使う必要はありません。それを使っても音が良くなることは限らないからです。今回、Linux を使う MSS-i3/MSHD が高音質を実現できたのは「ハードウェア」ではなく「ソフトウェア」の音質に優れるからです。Windows PC で音を出すために必要な「プレーヤーソフト」には注目してください。かなり音が変わります。私は「雰囲気の良い音が出る」Win Amp を通常使っていますが、今回はプレーヤーソフト

を MSS-i3/MSHD と合わせるため「VLC」を使いました。音質が優れなかったのは、VLC の影響があるかも知れませんが、また、DAC やアンプ、あるいはスピーカーやソースを変えてテストすると異なった答えになる場合があるのは、付け加えるまでもないでしょう。

PC オーディオの黎明期（未だに黎明期かも知れないですが）には、CD ドライブはエラーするから音が悪いと言われたことがあります。しかし、それは大きな誤りです。最近の CD メカニズムは低価格でも性能が高く、よほどのことがない限り CD の情報をエラーフリーで 100%完全に読み取ることを確認できるからです。また、PC で CD を読み取るとエラーが減るといっても迷信だと思っています。それは CD プレーヤーで再生できない傷の付いた CD は、PC にリップしてもやはり傷のある場所で音が飛ぶからです。PC が完全にエラーを補正できるのなら傷で音は飛びません。このような経験から PC の読み取り能力は、CD とそれほど変わらないと考えています。

PC オーディオファンには申し訳ないのですが、CD の読み取りで「音質」が変わるのは、実は「読み取れるデー

ターの精度」ではありません。最近、ディスクの素材にガラスや、高品質な樹脂を使った「高音質 CD ソフト」が発売されていますが、それは CD プレーヤー（CD ドライブ）はディスク材質の影響で音が変わるからです。なぜディスクの材質で出てくる音が変わるのかその理由を説明できるメーカーを私は知りません。また、私も理由を知ることはありません。しかし、豊富な実験と経験から「CD ディスクの響き」が再生される音に影響することを知っています。CD の響きが再生音に影響することをプラスの方向に使ったのが、ベルトドライブメカニズムを搭載する CD3N (TL3N) Analogue です。これらのモデルには AIRBOW が開発した、高音を伸びやかにする特殊なスタビライザー「STB-1」を付属しています。このスタビライザーは「それ自体が楽器のように響く」ことで、CD 化（デジタル化）で失われた楽器の高次倍音を復元する力を持っています。その効果は大きく、今回の試聴で CD3N Analogue は CD の再生でさえ、SA1451 Master で聞く SACD を超える高音質を聞かせてくれました。

話を戻します。Rotel RDD-1580 は今回聞き比べに使っ

た製品がいずれも RDD-1580 よりもかなり上位機種だったため、「ここがよかった！」という強い印象がありません。しかし、それは良い意味での RDD-1580 の長所です。RDD-1580 には DSD ファイルに対応しないというスペック上のウィークポイントはあるものの、ソースの録音やほとんどの DSD ファイルが「PCM からアップコンバートで作られている」という事実を考えると、DSD が高音質という保証はどこにもありませんから、DSD 対応は機械としても魅力を高めてはいるもののそれはスペック上だけで音質的なメリットはないと断言できます。

RDD-1580 の魅力は「素の良さ」を持っていることです。特に MSS-i3/MSHD との組み合わせで聞かせてくれたノイズ感が感じられない、滑らかで柔らかな音は印象的でした。Rotel が設定しているメーカー希望小売価格 15 万円の価格帯では、最も上位にランクできる良い製品だと思えます。

代表ヨーロッパ周遊記 ウィーンアコースティック本社訪問編



ウィーンアコースティック社の営業と開発陣。中央のオレンジの髪の女性がお世話になったマリアさん。右端が、マリアさんの片腕で付きっきりで私達のお供をしてくださった、「ピョートル」さん。



作業台の後ろにならんで頂いて、社員の集合写真を取らせていただきました。和気藹々とした雰囲気伝わります。ピョートルさんだけがムゲン面ですが、機嫌が悪いのではなくポーランド人の癖、気分を表情に出さないのです。マリアさんも、ピョートルはもっと表情を出して欲しいと言っていました。でも、ピョートルさんはどんな仕事も黙々とこなすとてもいい人です。



こちらは、生産を担当している社員の面々です。

Vienna Acoustics 社訪問とウィーン観光で大変お世話になったお礼に Vienna Acoustics 社 CEO Maria さんへ、彼女が大好きなスーパーマリオとルイージのコスプレウェアを送ったら、こんな素敵な写真が届きました。国が違い、人種が違っても、心は同じと感じられてとても嬉しくなりました。そんな彼らで作っている、Vienna Acoustics のスピーカーは、聞く人の心を愛情で満たします。



音を音楽に変えられるスピーカー。
音楽の心が伝わるスピーカー。
それが Vienna Acoustics です。